わたしの
おかあさん
について

突然現れた謎の女性。

『ママ』って言われても……。

mama

年末年始
読み切り特集
Part3

2016年大大ブレイク必至の注目作家 BE・LOVE初登場!

糸井のぞ

修正デザインが届かないと明日の会議の意味ないじゃない

とりあえずできたとこまでプリントアウトしといたほうがいいわね

わかりました

これ忘れてる！

あ

●仕事漬けの日々に、突如起こった不可思議な家族問題！

お腹すいたと思ったらもう9時だわ

グー

ブー

はーあ

はい もしもし

ああ 弥生おばちゃん？ 久しぶり

ピロッ

まぁたこんな
時間まで
仕事？
今忙しくて
そんなに女が
働いても
いいことな…
あーあー
はいはい
それで
今日はなんの用？
そうやった
星子ちゃん
気をしっかりもって
聞きなさいよ
えっ
ゴクッ
もしかして…
あんたの
お父さんがね
え

若い女と
一緒に
住んでるのよ！

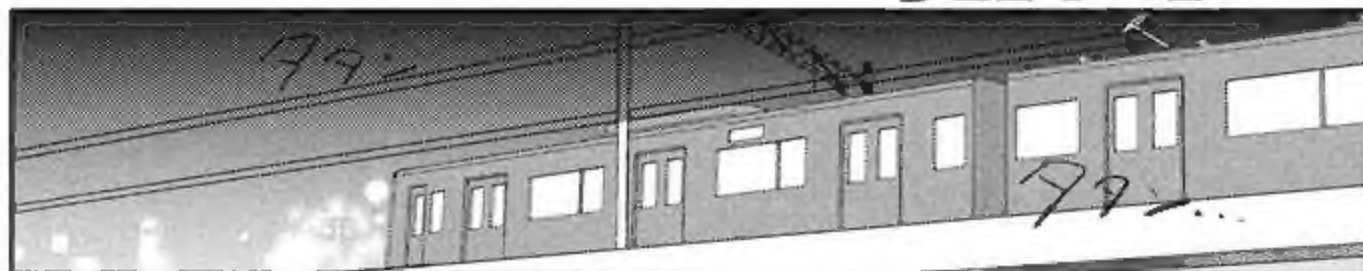
悪い人じゃなければべつにいいと思うんだけど

何言ってんの!! 一人娘でしょ?

絶対だまされてるに決まってるわよ!!

明日にでも行って様子を見てきてっ

あーめんどくさ

父はわたしが5歳の時に母を亡くしてからずっと独り身だ

電車で1時間半の実家に盆と正月くらいしか戻らないわたしにとっては父がこのままずっと一人でいるより安心できるというものだった

ガチャ

お父さーん

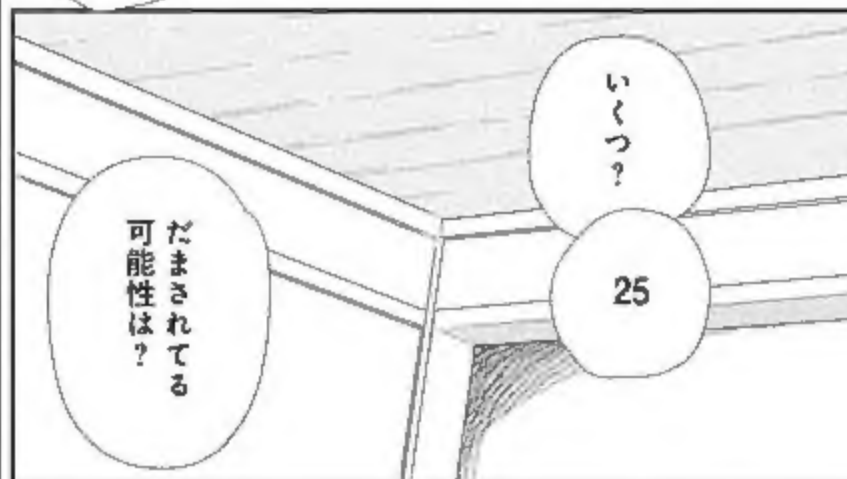
…花だ

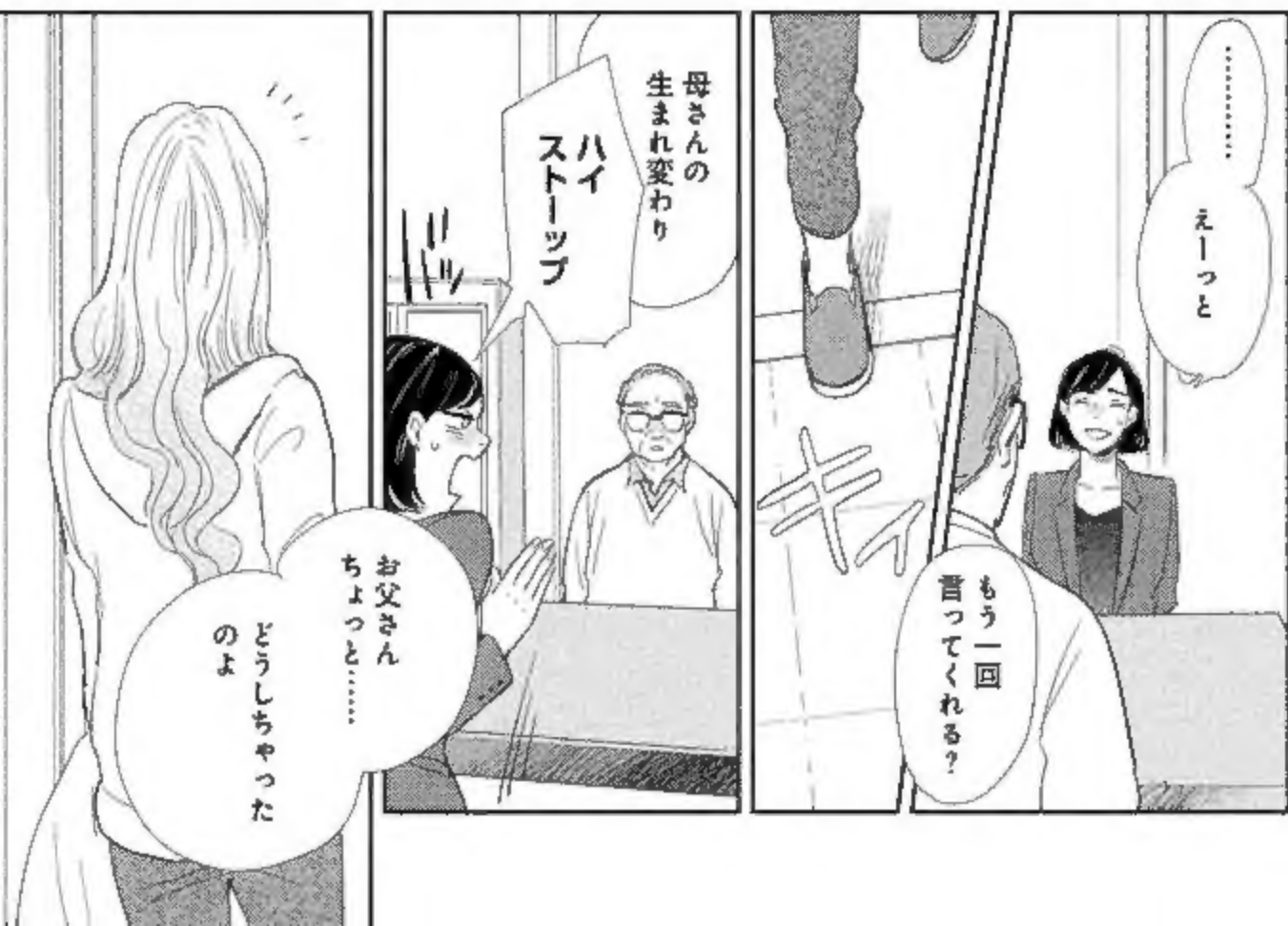
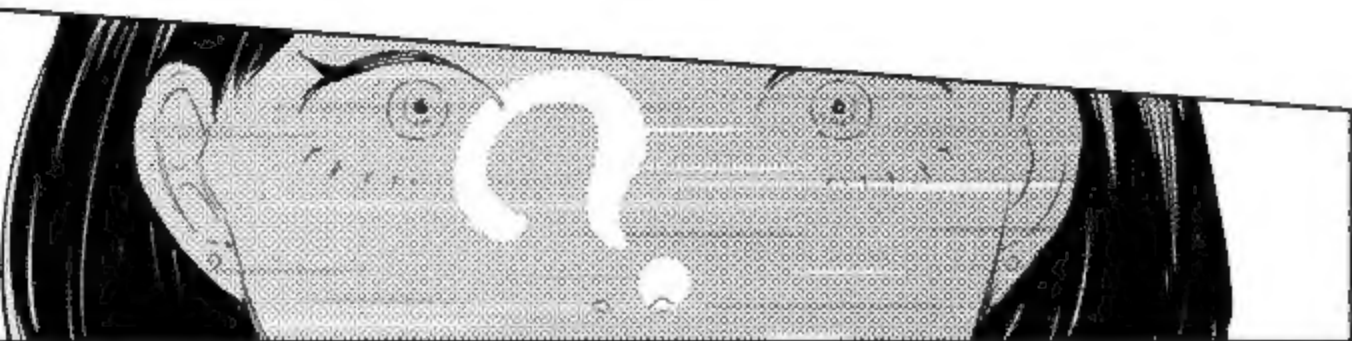
どうした
めずらしいな

うん…
その
弥生おばちゃんに言われてさ

……
なるほど

部屋もきれいにしてあるなあ

……でどこで知り合ったの？
その女の人

……
まあ飲み屋みたいなとこだ
うむ
居酒屋とか？
……まあそうだな
……
ふぅ
……
星子
いくつ？
25
だまされてる可能性は？
おまえにいつ話そうかと考えていたが
とりあえず落ち着いて聞いてくれ
うん？
ゴクン
彼女はな

………
えーっと
もう一回言ってくれる？
キィ
母さんの生まれ変わり
ハイストーップ
お父さんちょっと……
どうしちゃったのよ

そんなこと
信じられるわけ
星子…
星ちゃん
なのね？
キャッ
え…

こんなに大きくなって

改めまして

副島ゆきと申します

「副島ゆき」は物心ついた時から不思議な記憶があったそうで

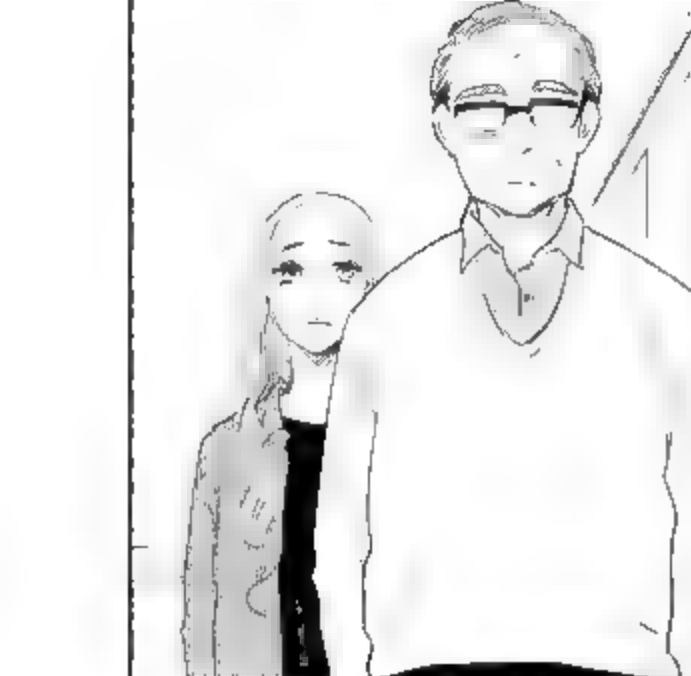
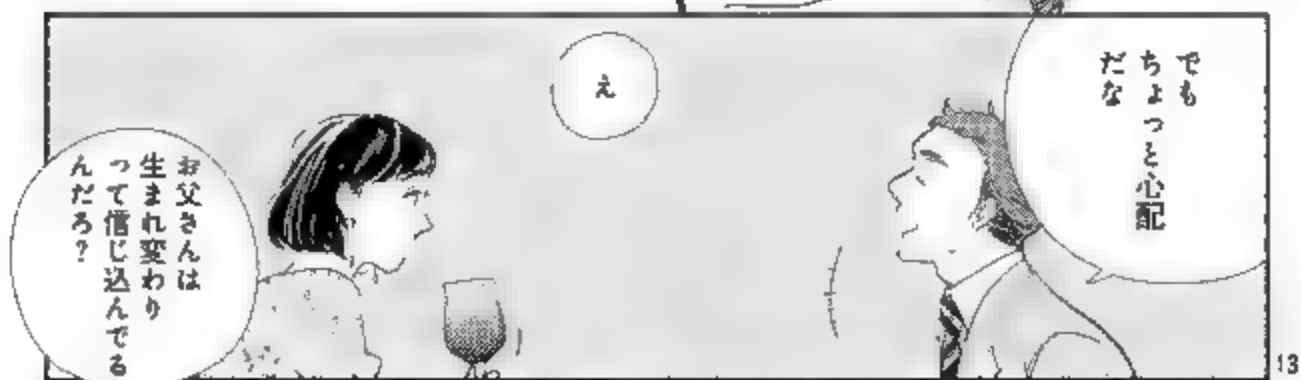
そののち
父と運命的な出会いをし
その謎が解けたらしい
父もそれを受け入れて
二人で暮らし
始めたのだそうだ
……で
その話を
信じろって？
おまえ
子どもの頃
そんなマンガ
読んでたじゃ
ないか
前世とか
何とか
カァァァ
憶えてないっ
へえ〜
もちろん
無理に納得
する必要はない
だが父さんは
この人と
暮らして
いくよ
わかった
晩飯
食べていけば
いいのに
なかなか
うまいぞ

そんなに若くてきれいな人が一緒にいてくれて

……

べつに無理やりな理由作らなくっても反対したりしないのに

ああ

ありがとう

なかなかぶっとんだ話だな～
どうだった？
約30年ぶりに母親から抱きしめられた気分は
どうもこうもないわよ
細いなー体重どれくらいだろうって思うくらいで
そりゃうらやましい
こらこら
5歳の時に亡くなってるのよ
母がどうだったかなんてわたしにわかるわけないじゃない
記憶ってまったく残ってないの？
ほとんどね
とにかく朝も夜も仕事ばっかりで奥さんとしてはてんでダメだったみたい
そう思うとわたし母親似なのかも
え？

料理下手だし
子供も興味ない
絶対 結婚
向いてないなー
って思うもん

・・・
そんなの

してみないと
わからないだろ
なあ

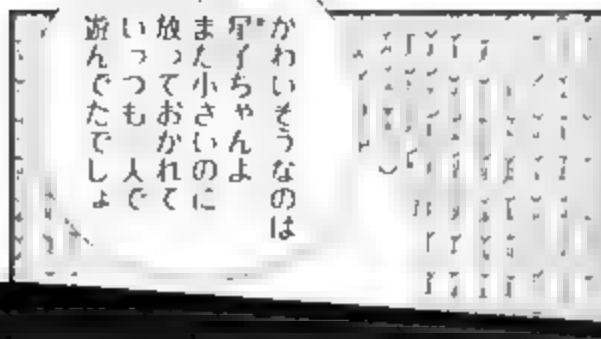
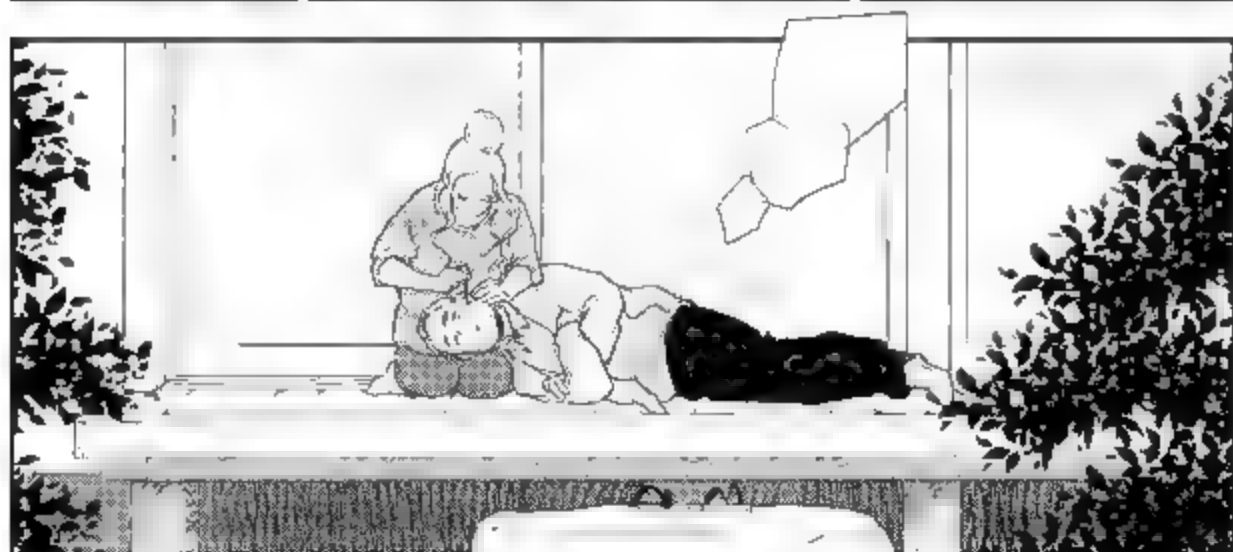
……

でも
ちょっと心配
だな

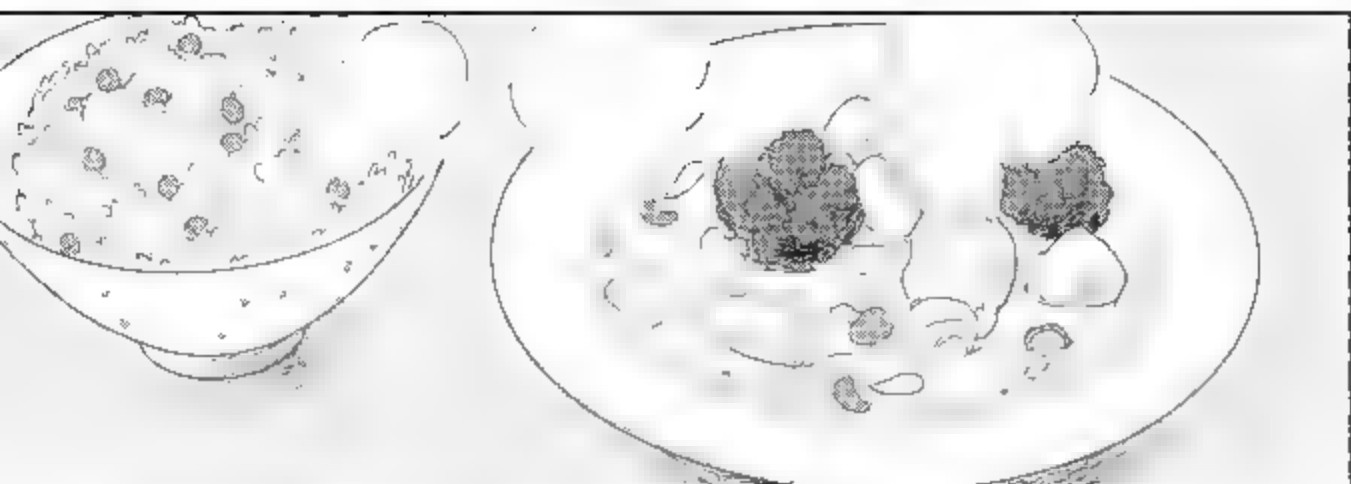
え

お父さんは
生まれ変わり
って信じ込んでる
んだろ?

やっぱり
お父さん
大丈夫かなぁ

あー
星子ちゃん来てくれたのね？
ビクッ
今日こそごはん食べていってもらいますからね
……
…はあ

わたしのおかあさんについて

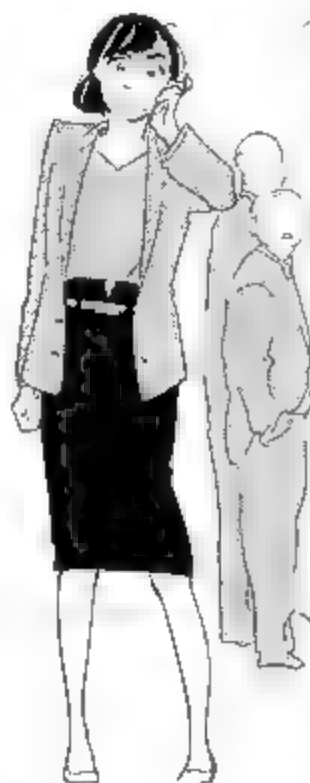
部屋もすごくきれいにしてあるし料理もおいしいって父が…
それは最近の話
だって星子ちゃん子供の時にわたしにおいしいごはん作ってもらった記憶そんなにないでしょう？
その頃のことほとんど憶えてないんで
……
そりゃそうよね
全然得意じゃないし正直そんなに好きじゃないよ
だって料理ってきちんと作るの難しいんだもの
食べると洗い物が必ず出るし
掃除はつねにやらないとどこかしら汚れてる
洗濯だってひと手間かけるかかけないかで汚れオチが違うし
なにより毎日毎日こんな労働してるのに無給だなんて！
…
だったらなんでやってるんですか
そりゃあまあ
……やってあげたいから
必死に…
でも洗濯はもともと好きよきれいに干すの楽しいし！
かわいい

こんな人だったんだ
お母さんって
違う違う
これはお母さん
じゃなくて
さん！

これはもともと
私の得意料理で
小さい頃の星子ちゃん
にも大好評
だったんだから
どうぞ〜
あつっ
おいおい
ゆっくり
食べなさい
わかってる！
もー
ふふっ

美味しい
その夜
こんな夢を
見た
本を読んでいたら
ふいに後ろから
包まれるように
誰かに
抱きしめられた
わたしは
なんだか
怖くて
動けないまま
しばらく
すると
後ろから
頭に
響くように
声がした
あんたは
あったかいねえ
わたしは
それがいいことなのか
悪いことなのか
わからなかったので
返事はしなかった

ごめん!!
週末の箱根行けなくなっちゃった
販促イベントが急に決まって手伝わないといけなくて…
ほんとごめん!!
ハッ
やっぱりな
やっぱり?
いやこうなるかもってちょっと思ってたからさ
ごめん…
今からだとキャンセル料けっこう取られるし他の人と行ってきていい?
え?

…うん
行ってきなよ
いいのか
よ！
ビクッ
……
…おまえが
悪いわけじゃないけど
今のはさすがに
がっかりだわ
はぁ
ちゃんと
キャンセル
しとくから
ま
仕事
がんばれ
晃…っ
あ――
ブーブーブー
はい！
さっ!!
あっ
星子ちゃん？
今
妹たちと…家に
向か…るから
アンタも
すぐ来な
…
え
よく聞こえ
ない…
どうしたの!?
弥生おばちゃん

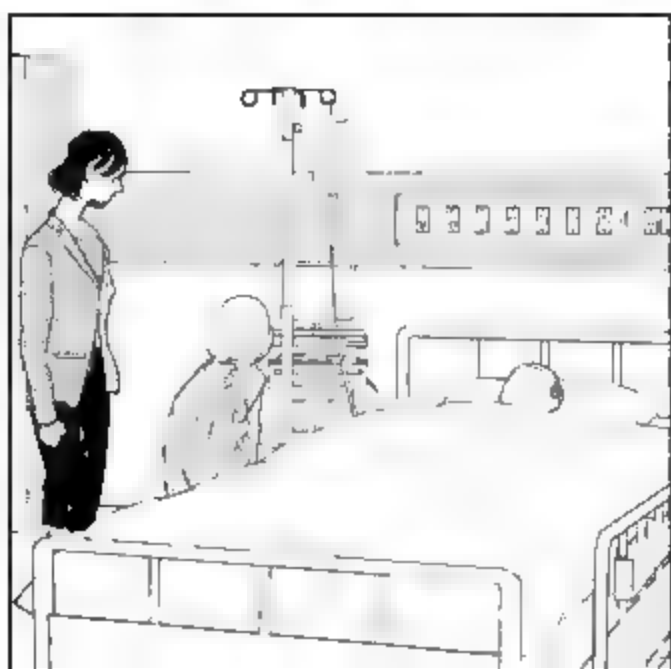
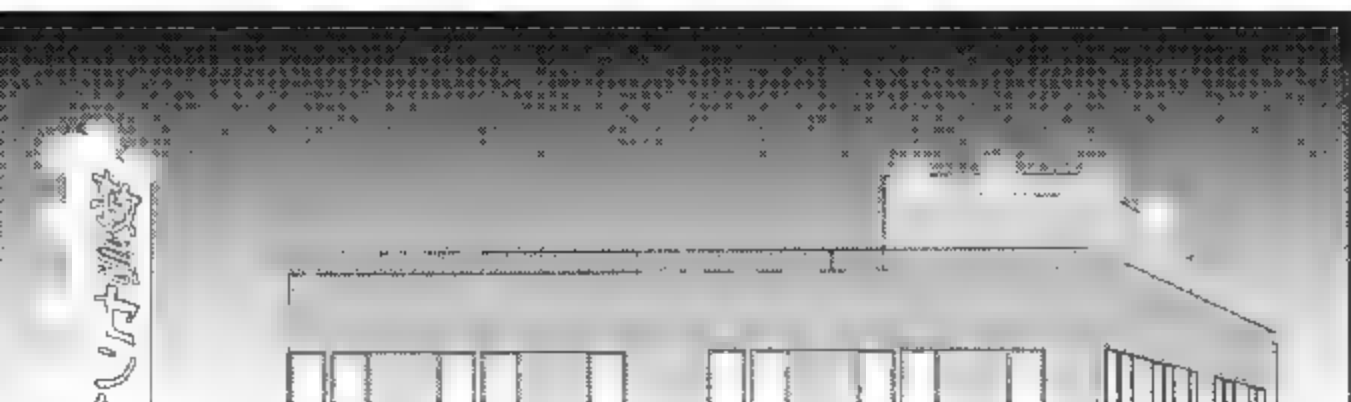
あの女についてちょっと調査させたらキャバクラで指名ナンバーワンで男が何人もいたとかひどいのよ！
絶対おい出してやるんだから〜〜〜!!
待ってよおばちゃん
あーもう!!
この死ぬほど忙しい時に!!
生まれ変わりだなんてあるわけないでしょ？お兄ちゃんどうしちゃったの？
ガチャ
よく見てよこの女 珠子さんとは全然違うじゃない？しっかりしてよ
うわー 生まれ変わりの話しちゃったんだ
副島さんあなたも何か言いなさいよこの詐欺師！
ちょっ…お兄ちゃん何してるの
ちょっと…
ダッ

何を言われようと
わたしはもう
彼女から
離れることはない
というわけで
今後とも
彼女ともども
どうぞ
よろしく
バタン
あー
驚いた
お父さんが
あんなこと
言うなんて
これから お父さん
親戚の中で
取り扱い注意人物に
なりそうだわ
ほんと なんで
生まれ変わりの話
しちゃうん
だろうね
…って
なんか音
しなかった?

ほーんとお父さん生真面目なんだから

おばちゃんたちが信じるわけないのに

彰一郎さん？

え

お父さん!?

仕方ないわ
年をとったんだもの
今じゃなくても
人はいつか
死んでしまうわ
思いのほか
あっけなく
ゆきさん
……
ねえ
星子ちゃん
わたし 自分が
死んだ日のこと
憶えているのよ
その頃
3年近くかかった
大きな仕事が終わって
その後片付けの途中で
家に戻ってきていたの
ひどく疲れてた
庭に目をやると
ぽつんと一人で
絵本を読んでる
あなたがいてね
それが
急になんだか……
世界でいちばん
幸せないきものに
見えた
あ…

たまらなくなって
後ろから
あなたを
抱きしめたわ

あったかかったぁ

カラカラだった
何かが少しずつ
満ちていく
感じがした

そして
まるで何かの
魔法が解けたみたいに
大切なものの順番が
変わってしまったの

ああわたしには
この子がいるんだ
そして
あの人がいるんだって

なんで今まで
ほったらかしてて
平気だったんだろうって
あせりさえ感じてきて

今すぐ職場に行って
仕事終わらせて
しばらく休もうって
あわてて車運転したら
そこにトラックが
どかーんと

嘘でした!

嘘?

そう今の話も生まれ変わりもぜーんぶ嘘!

この人わたしの話をあっさり信じちゃってさ

あなただって母親の記憶ないっていうからチョロいかな~と思ったけど

全然お金なかったしうるさい親戚たちはいっぱい来るしで面倒くさくなっちゃった

なによその顔 星子ちゃんだって最初っから生まれ変わりなんて信じてなかったくせに

……

わたしは貴方が母さんの生まれ変わりだろうとなかろうと知ったことじゃないけど

ガッ

お手紙ください♥

はじめまして！糸井のぞと申します。美味しいものとお酒が大好きです！よろしくお願いします。

あて先
〒112-8001
東京都文京区音羽2-12-21
講談社 BE・LOVE気付
糸井のぞ先生

…まったく
人を死にかけみたいに扱うな
あら父さん起きてた?
彰一郎さん
わたしここにいてもいいのかな
ここ?
ここは明日にも退院させられると思うが
あ病院じゃなくてあなたの近くにってこと
きまじめなんだから
お父さん…
ああ
ぜひそうしてくれ

ほんとうの
ことは
きみと
わたしだけが
知っていれば
いい

……そっか
いきなり
ごめん
なんで？
うれしいよ
まあ
上がりなよ
…って
ぶつ
ガッ

ちゃんと
あたたかい
話したいことが…
いっぱいあるの
いま
たしかなもの
それとね
あとね…
今度うちの実家にも行こうよ
このまえ話した生真面目な父さんと若くてきれいな母さんを紹介したいんだ
●糸井先生の次回作にご期待ください！
■わたしのおかあさんについて・おわり■